

2702 日本海沿岸地域を中心とした地震・火山噴火災害関連史料の収集と分析
担当者 矢田俊文 (yata@human.niigata-u.ac.jp)

- ・実施機関（代表機関）名
新潟大学災害・復興科学研究所
- ・研究目的

各地の文書館・図書館等の史料保存機関に所蔵されている歴史資料を調査し、日本海沿岸を中心とした地震・火山噴火に関連する前近代の史料を収集して翻刻を行う。重要な史料については、理系の研究者等にも理解しやすいように丁寧な校訂者注を付ける。収集・翻刻した新たな地震・火山噴火災害関連史料については、地震別に整理し、それをさらに藩領等地域別に分類し、活用しやすいように編集し、データベースを構築する。このデータベースを活用し、歴史時代における日本海沿岸地域の地震活動について、地形等の地域的特徴を分析した上で、近代的な観測データとの統合を目指す。日本海沿岸の地震関連の考古データも収集し、分析・検討の材料とする。災害絵図については、絵図に記された文字を読み込みトレーズ図に文字情報も組み込み、データベースに収める。

また、既刊地震・火山噴火災害関連史料集所収史料のうち、総家数・倒壊家屋数・即死者数が記載され、家屋倒壊率・即死者率が導き出すことができ、近代的な観測データとの比較・検討が可能な良質の史料については、原本調査と校訂作業を行い信頼できる史料を作成し、地震別・地域別に分類してデータベースを構築する。

さらに、このデータベースに収められた史料に記載された村の総家数、倒壊家屋数・即死者数を詳細に分析・検討して、地域別の被害表等を作成する。家屋倒壊率・即死者率は地形によって異なるので、被害率表を作成する際には地形の検討も行う。これらの取り組みにより、前近代の史料により震源域を特定する方法を確立する。また、データベースに収められた史料から従来明確にされてこなかった「半潰」とはいかなる被害状況を示しているのかを明らかにする等の検討を行うことを通じて、現在の前近代の震度を出す方法を再検討し、あらたな震度を算出する方法を確立する。津波については到達点を史料から導き出し、また、土砂災害については即死者率から地点を特定する方法を構築し、防災・減災に貢献したい。データベースにおさめられた史料、被害絵図の中からさらに防災教育に役立てられるものを選び出し、現代語訳やわかりやすい図に直す工夫も行う。